

卸売業新春トップインタビュー

日本酒類販売

田中正昭 社長



— 21年の振り返り

コロナ禍の影響により業務用業態は大きく落ち込みましたが、自家消費の需要から、ドラッグストアやホームセンターなどの量販、EC取引、通販などは好調を維持しました。

その一方で、働き方改革が一層進むきっかけにもなりました。当社はコロナ禍以前より在宅勤務やフレキシブル勤務体制を導入していましたが、会議や商談もオンライン化が進展しました。こうした体制を実現していくには、業務の効率化やIT化に加え取引先の協力も必要です。結果的には、コスト低減に繋げることができました。

例年開催している首都圏展示会は、緊急事態宣言下ではありましたが、感染予防対策も含めて入念に準備して5月にリアル開催し、来場者からは好評でした。また、8月には東京国税局主催のオリパラ関連イベント

トで酒類販売コーナーの運営・販売に参画。当社社員が売り場に立つて顧客と直接触れ合ったことは、得難い経験となりました。

— 22年の展望

コロナの影響は続きますが、当社の重要な取引先業態の一つである業務用業態の回復に向け注力していきます。また、人手不足や庫車確保が困難な業務用酒販店など取引先への料飲店代配提案も進展させていきます。一方で好調な自家消費への対応にも引き続き注力

市場分析の精緻化で取引拡大へ

カー、小売り業者との情報交換や意思疎通を密にし、分析の精緻化を図るとともに、食品・飲料・原材料ビジネス・調味料などのカテゴリーもさらに強化拡大していきます。

他方で、コロナ禍は物流の問題も浮き彫りにしました。円滑化やコストコントロールは引き続き課題です。人手不足や労働管理の強化などによるコストの増加要因がたくさんあります。当社においては、配送経

路や企画において異業種とコラボした商品や複数開発中であり、おいしいこと、本物であることを重視した、訴求力のある様々な商品を提案していきます。

し、量販、EC販売、BtoC取引の売上確保・拡大を目指します。昨年からは、特にマーケットニングを強化しています。市場分析は、誰が行っても同じ結果になるわけはありません。酒税改正、コロナ禍、消費税増税などにより、市場の先行きが見通しにくくなっています。人々の行動パターンが変化し、ニーズや購買形態が多様化したためです。だからこそ、売れる理由を示した商品提案が、より一層大事になります。取引先メー

費は無理のない範囲で減車を実施し、ある程度のコストコントロールができていると考えています。庫内作業費については、ロット条件の変更や検品手続きの軽減化など、物流センター内の作業を見直しています。

今後、業務用業態が回復し、物流量が増加した際に、現在の人手や配車で、流通をどう回していくか。経費を抑えることも利益確保の面で重要となります。

働き方改革では、テレワークを引き続き実施します。根底にあるのは、業務改革・業務ラインの見直し、紙資料の削減等の推進です。そのためにはDXの進展が欠かせません。改革すべき対象を見極め、プロジェクトチームにより業務内容やプロセスを見直していきます。ワークライフバランスの推進は、最終的にはコストダウンにも繋がるのが肝要です。DX推進にもコストが掛かることを忘れてはいけません。

このほかの取り組みとしては、現在再開発が行われている八重洲エリアに、アンテナショップを開設する予定です。物販・飲食スペースの設置を検討しています。当社ならではの地酒のラインアップやさまざまな酒類とともに、料理とのマッチングなども提案していきたいと考えています。

— ウイズコロナに向けて

コロナ禍の収束見通しは諸々の見解がありますが、取引先との密な情報交換、そしてマーケットニングの強化による市場分析の精緻化が、これまで以上に重要になってきています。納得し

て頂ける提案で取引先の信頼を獲得し、更なる取引拡大を図ります。

営業面でも、営業プロセスのデジタル化を通じて、より効率的な営業体制を構築し、活動を充実させます。

21年に発売した本格焼酎ハイボール缶や台湾ウイスキーをベースにしたRTD「カバランパーカテル」は市場に受け入れられ、相応の売上を確保できました。本年は更なる販促を行います。また、より一層消費者の目線に立ち、販路や企画において異業種とコラボした商品や複数開発中であり、おいしいこと、本物であることを重視した、訴求力のある様々な商品を提案していきます。

最後に、このほど令和3年度秋の勲章(瑞宝中綬章)を受章しました。30余年、公務員として勤めてきたことが評価されました(元・東京国税局長ほか)。大変ありがたく、喜びを感じております。

(聞き手 松丸浩一、まとめ 小倉泉弥)

独自の調査による統計・レポートづくりを通じて50余年。今後も酒類食品業界をデータとして記録し続けます。

●A4判速報形式
●有力企業広告も掲載
●購読料 6カ月45,100円(税込み)

●B5判雑誌形式。毎月月末発行
●有力企業広告も掲載
●購読料 6カ月24,750円(税込み)

日刊食品通信 業界唯一の酒類食品総合日刊紙。多忙の時はヘッドラインをお読み下さい。本文も簡潔、明瞭です。

日刊経済通信社の刊行物

2021 1